

インスリンポンプ療法が血糖コントロールに有用であった 1 型糖尿病透析患者の一例

山本 直宗、吉田 麻美、木股 宏恵、金万 淳一、大島衣里子、
永井 孝治、合田 薫、中澤 博子、坂井 宏実、西山 浩司、
林 修平、阿部 恵子、河島 久人、金 善江、佐伯 彰夫、
杉野 正一（藍野病院 内科）

【症例】：

80 歳、女性

【主訴】：

嘔気、霧視

【現病歴】：

1986 年の白内障手術の際に高血糖指摘された。この時抗 GAD 抗体は陽性で 1 型糖尿病と診断され、インスリン導入となった。2011 年に腎不全、心拡大および浮腫が認められ、血液透析導入となった。透析導入後はインスリンデテミルを透析日 10 単位、非透析日 14 単位皮下注射し、インスリン アスパルトを 1 日 3 回、食後血糖によるスライディングでの投与を行っていたが HbA1c は 8.4~9.5% とコントロール不良であった。2012 年 8 月以降、インスリンの打ち忘れが目立ち、2012 年 11 月の朝から高血糖持続し、嘔気、霧視、意識障害も伴ったため緊急入院となった。

【経過】：

血糖 712mg/dL、HbA1c (NGSP) 11.2%、高血糖高浸透圧性昏睡と診断し生理食塩水とインスリンの持続点滴を行い血糖改善の認めため、インスリンの自己注射に戻したが、高血糖と低血糖を繰り返す不安定型であった。第 10~13 病日に連続血糖測定 (CGM) を施行した。透析日、非透析日では血糖値の変動パターンの日差変動 (平均値の日差変動 232 ± 31 mg/dL 196-252mg/dL) および日内変動 (非透析日 252 ± 76 mg/dL 111-400mg/dL 透析日 $67-400$ mg/dL) が大きいため、インスリンの固定打ちではコントロール困難と判断し、CGM のデータを基に CSII を導入し再度 CGM を施行したところ血糖および日差変動 (136 ± 17 mg/dL 196-252mg/dL)、日内変動 (非透析日 170 ± 31 mg/dL 131-252mg/dL 透析日 163 ± 30 mg/dL 123-245mg/dL) は改善した。

【考察】：

インスリンポンプ療法が血糖コントロールに有用であった 1 型糖尿病透析患者の一例を経験したため若干の文献的考察を加え報告する。